【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【公表番号】特表2005-500085(P2005-500085A)
【公表日】平成17年1月6日(2005.1.6)
【年通号数】公開・登録公報2005-001
【出願番号】特願2002-560515(P2002-560515)
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｌ　27/00
　Ａ６１Ｆ　 2/28
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｌ　27/00　　Ｇ
　Ａ６１Ｆ　 2/28

【手続補正書】
【提出日】平成15年8月28日(2003.8.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
組成物であって、以下：
生分解性のマトリックスまたはマトリックス形成材料；および
滑膜組織の片の調製物；
を含有する、組成物。
【請求項２】
前記マトリックスが、フィブリン、コラーゲン、ゼラチン、アガロース、およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】
有効量の形質転換因子をさらに含有する、請求項１または２に記載の組成物。
【請求項４】
前記形質転換因子が、ＴＧＦ－β、ＢＭＰ、ＣＤＭＰ、ＩＨＨ、ＳＨＨおよびＳＯＸ－９からなる群より選択される、請求項３に記載の組成物。
【請求項５】
前記滑膜組織が、ＢＭＰ、ＢＭＰ－２、ＢＭＰ－９、ＴＧＦ－β、ＣＤＭＰ、ＩＨＨ、ＳＨＨおよびＳＯＸ－９からなる群より選択される１種以上の軟骨形成遺伝子で形質転換された細胞を含有する、請求項１～３のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項６】
前記形質転換因子が、制御放出送達系に付随している、請求項３に記載の組成物。
【請求項７】
前記制御放出送達系が、リポソーム、ミクロスフィア、生体侵食性ポリマー、硫酸ヘパリンプロテオグリカンに化学結合したコラーゲン繊維、および炭水化物に基づく小体からなる群より選択される、請求項６に記載の組成物。
【請求項８】
有効量の増殖因子をさらに含有する、請求項１～３のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項９】
有効量の抗脈管形成因子をさらに含有する、請求項１～３のいずれか１項に記載の組成

物。
【請求項１０】
有効量の鉱化作用インヒビターをさらに含有する、請求項１～３のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項１１】
有効量のカルシウム沈着インヒビターをさらに含有する、請求項１～３のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項１２】
フィブリン接着剤、トランスグルタミナーゼまたはフィブロネクチンをさらに含有する、請求項１～１１のいずれか１項に記載の組成物。
【請求項１３】
ヒトを含む動物における軟骨欠損の処置のための医薬の調製における、請求項１～１２のいずれか１項に記載の組成物の使用。
【請求項１４】
ヒトを含む動物における軟骨欠損の処置のための医薬の調製における、形質転換因子に浸漬したパッドの使用。
【請求項１５】
ヒトを含む動物における、軟骨の欠損の処置のための、滑膜被覆膜の使用。
【請求項１６】
有効量の形質転換因子をさらに含有する、請求項１５に記載の使用。
【請求項１７】
前記形質転換因子が、ＴＧＦ－β、ＢＭＰ、ＣＤＭＰ、ＩＨＨ、ＳＨＨおよびＳＯＸ－９からなる群より選択される、請求項１６に記載の使用。
【請求項１８】
前記滑膜被覆膜が、部分的に誘導体化されている、請求項１５～１７のいずれか１項に記載の使用。
【請求項１９】
前記組成物が、前記欠損の表面のプロテオグリカンを分解するための薬剤をさらに含有する、請求項１３～１８のいずれか１項に記載の使用。
【請求項２０】
プロテオグリカンを分解するための前記薬剤が、コンドロイチナーゼＡＣである、請求項１９に記載の使用。
【請求項２１】
滑膜被覆膜を軟骨欠損の縁に付着させるための医薬の調製における、形質転換因子に浸漬した縫合糸の使用。
【請求項２２】
ヒトを含む動物において関節軟骨欠損を処置するための医薬の製造における、滑膜細胞含有組成物の使用。
【請求項２３】
前記滑膜細胞が自己由来である、請求項２２に記載の使用。
【請求項２４】
前記滑膜細胞が、培養物中で増殖されている、請求項２２または２３に記載の使用。
【請求項２５】
前記組成物が、生分解性マトリックスをさらに含有する、請求項２２～２４のいずれか１項に記載の使用。
【請求項２６】
前記組成物が、有効量の形質転換因子をさらに含有する、請求項２２または２５に記載の使用。
【請求項２７】
前記組成物が、有効量の抗脈管形成因子をさらに含有する、請求項２２または２５に記

載の使用。
【請求項２８】
ヒトを含む動物において関節軟骨欠損を処置するための医薬の調製における、滑膜由来の自己由来の軟骨マトリックスの使用。
【請求項２９】
前記組成物が、前記欠損の表面のプロテオグリカンを分解するための薬剤をさらに含有する、請求項２２、２６または２８のいずれか１項に記載の使用。
【請求項３０】
プロテオグリカンを分解するための前記薬剤が、コンドロイチナーゼＡＣである、請求項２９に記載の使用。
【請求項３１】
前記マトリックスが、フィブリン、コラーゲン、ゼラチン、アガロース、およびこれらの組み合わせからなる群より選択される、請求項２５に記載の使用。
【請求項３２】
前記抗脈管形成因子が、スラミン、アンギオスタチン、メタロプロテアーゼインヒビター、抗ｂＦＧＦ抗体、抗ＥＳＡＦ抗体、フマギリン、およびＡＧＭ－１４７０からなる群より選択される、請求項２７に記載の使用。
【請求項３３】
前記形質転換因子が、ＴＧＦ－β、ＢＭＰ、ＣＤＭＰ、ＩＨＨ、ＳＨＨおよびＳＯＸ－９からなる群より選択される、請求項２６に記載の使用。
【請求項３４】
有効量の増殖因子をさらに含有する、請求項２２に記載の使用。
【請求項３５】
有効量の鉱化作用インヒビターをさらに含有する、請求項２２、２６または２７のいずれか１項に記載の使用。
【請求項３６】
有効量のカルシウム沈着インヒビターをさらに含有する、請求項２２、２６または２７のいずれか１項に記載の使用。
【請求項３７】
フィブリン接着剤、トランスグルタミナーゼ、フィブロネクチンおよびこれらの組み合わせからなる群より選択される薬剤をさらに含有する、請求項２３、２６または２７のいずれか１項に記載の使用。
【請求項３８】
前記形質転換因子が、制御放出送達系に付随している、請求項２６に記載の使用。